

らいぶ LIVE 創 REATOR つくりえいたー

NO.42
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして

CONTENTS

研究会開催に当たって	1
研究会各授業PR	2
学習紹介：ダイアログ型話し言葉と「思い地図」により「伝え合い、聞き合う」かわりを育てる	3
学習紹介：「割合」を意識した2年生の算数	4
学習紹介：思考の表出と共有！	5
学習紹介：「どの子にも『安心』『安全』『楽しい』泳ぎを保障する」指導法研究	6
学習紹介：楽しく学ぶ音楽の基礎・基本	7
コラム：全国複式学級の学びの交流をめざして	8

学びの質の高まりをめざして



研究会の開催に当たって

松浦善満（附属小学校長）

元来「少年期」は子どもが最も知的関心を高め、学びの世界に没頭する時期です。しかし現実には「学力格差」の拡大、あるいは「学びからの逃走」とも言われる事態が広がっています。

そこで私たちは、学校が適切な学習内容・学習方法・学習環境を工夫すれば、子どもの学びの世界は相当に広がり深まるとの視点から、「学びの質の高まり」の実現をめざした開発研究に取り組んできました。

当日は授業を通して成果の一端をご覧いただき、参加者の皆様と一しよに研究協議したいと思ひます。なお午後は、佐藤学先生（東京大学大学院教授）に我が国の教育改革をはじめ学校・授業改革の見通しについてお話ししていただきます。元気が生まれる研究会になると期待しておりますので、皆様方のご参集を心からお待ちしております。

期 日

平成20年11月1日（土）

8:15 8:40 8:55 9:00 9:45 10:00 10:45 11:00 12:30 13:45 14:30 16:00

日 程

受付

朝の会

移動

研究授業

移動

研究授業

移動

協議

昼食

概要発表

講演



講演

東京大学大学院教授
佐藤 学先生

主催・会場
後 援

和歌山大学教育学部附属小学校
和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 和歌山大学
和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 和歌山県連合小学校校長会
岸和田市教育委員会 阪南市教育委員会 泉南市教育委員会 岬町教育委員会

らいぶスクエア

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 P R
1 - A 生 活	三上 祐佳里 附属っ子あきのおもてなし	「これが、ぼくたちのおもてなし！！」 他校との交流から，子どもたちが「附属っ子 あきのおもてなし」を考えます。
1 - B 音 楽	田辺 麻衣子 はるなつあきふゆ	もっと「あき」らしく！！ 「たん・たた・うん・たあ」を使って子どもたちが作ります。
1 - C 国 語	西村 充司 くじらぐも	1 C 3 0 人の子どもたちと先生でつくる「1 C にぎやかくじらぐも」。一人ひとりの 発想力・表現力が合わさって，オリジナルな世界を楽しく繰り広げます。
2 - A 体 育	北端 一喜 2 A サッカー	個人技の習得型と2，3人のコンビネーションの発展型の融合をめざして！
2 B 生 活	居澤 結美 めざせ“和み”たい	「“和み”空間におうちの人を招待しよう！」 子どもたちが2 B 教室を「和っ！」と驚く“和み”空間に大変身させていきます。
2 - C 算 数	土岐 哲也 九九を使って	九九を使ってどんなことができるのかな？ 習いたての九九を駆使して，時には知恵を出し合って問題解決！さあ，チャレンジ！
3 - A 算 数	宇田 智津 形をしらべよう	きまり発見！ 図形の定義を活用しながらクラス全体できまりを発見していきます。
3 - B 英語活動	辻 伸幸 スカイ小学校の友だち 伝えよう	年間を通して国際交流活動を行っているオーストラリアのスカイ小学校の友だちのため に，2 回目のビデオレターにチャレンジ！
3 - C 理 科	馬場 敦義 風やゴムの働き	引っ張られると戻ろうとするゴム。身近にあるが不思議な物質です。体験的に学んでいく中で， ゴムと力についてのイメージを膨らませ，友達と共有し，その不思議をさぐっていきます。
4 - A 国 語	志場 俊之 一つの花	ダイアログ型話し言葉と「思い地図」による伝え合い・聞き合うかわりを通して， 学級が一体となって学ぶ姿を目指すと同時に，「一つの花」の主題に迫ります。
4 - B 社 会	谷口 佳都司 和歌山の歴史が育んだ 職人の技	和歌山県の伝統工芸品である紀州漆器（黒江塗）の素晴らしさや何百年にもわたって 守り続けている職人さん達の工夫や努力を探っていきます。
4 - C 理 科	中井 章博 めざせ！エネルギー博士	「太陽の光が電気に変わる！」新学習指導要領でも重点が置かれているエネルギー概念の構築 をめざし，子どもたち自らがイメージを共有しながら，エネルギー変換のひみつをさぐります。
5 - A 算 数	西村 文成 相殺，置換の考え方	「同じものに目をつけて」という単元で，相殺や置換の考え方を使い数量の関係を単 純にして解こうという文章題の単元です。子どもたちの数学的な考え方を育てます。
5 - B 社 会	片桐 宏 日本の貿易と運輸	関西国際空港に視点をあてながら，外国との貿易や運輸のしくみを探ります。貿易や 運輸を盛んにするために解決しなければならない様々な課題について調べ考えます。
5 - C 体 育	坂本 桂 シンクロマット	ひとつひとつの技のできばえと共に，グループで動きをそろえて表現することをめざします。グループで動 きの「質」を高める協同的な学びが，子どもたちの人間関係をより深めていくこともなっています。
5 - C 音 楽	江田 司 作曲にチャレンジ	中学校での「創作」活動と円滑に繋がる小学校の「音楽づくり」とは何かをテーマに， 少し高く設定された課題をペアあるいはグループで取り組んでいきます。
6 - A 総 合	山中 昭岳 地球を救えるか？	自然豊かな附属の自然。その自然の中にどっぷりと浸かった子どもたち。自らの体験と知識， そして人とのかわりから，子どもたちが地球を救う知恵を生み出します。
6 - B 家庭・総合	藤原ゆうこ・神山求実 ファーストフードに 追いつけ！追い越せ！	現代人の生活には欠かせない存在となっているファーストフード。そんなファースト フードを極めた子どもたちが見いだすものとは...？
6 - C 算 数	梅本 優子 分数のわり算	分数のわり算は，子どもにとっても指導者にとっても手強い学習対象！あまり研究授業では扱いたくない単 元...。でも，分数のわり算は突き詰めたところ「1あたり量」を求める算数的活動で解決！さてさて，6C の子どもたちの学びの質の高まりは如何に！
6 - C 国 語	須佐 宏 古典の世界を楽しもう！	新学習指導要領に示された「伝統的な言語文化」を6年生の子どもたちにどう学ばせ るか。中学校の古典へとつながるような学びに「百人一首」を教材にして挑戦します。
1 2 F 国 語	北川 勝則 くじらぐも お手紙	低学年複式学級において，互いにかかわり合い読みを深める学習展開はどこまで可 能なのか，2つの文学教材を使って提案したいと思います。
3 4 F 算 数	市川 哲哉 大きい数 およその数	両学年とも数直線からはじまり，3年生は大きな数の大小，4年生はがい数の表す範 囲に進めていきます。複式だからできる異学年の交流を見て下さい。
5 6 F 理 科	辻本 和孝 5・6 電気単元	5年生6年生ともに電気単元での授業です（新学習指導要領の先取りです）。目に見えない電気のはたらき について，子どもたちは体験を通して実感していきます。また，積極的な異学年交流もおこないます。

ダイアログ型話し言葉と「思い地図」により、
「伝え合い、聞き合う」かわりを育てる
～「白いぼうし」の実践を通して～

国語
4年A組担任
志場 俊之



ダイアログ型話し言葉と「思い地図」の活用

話し合いを活性化させるためには、仲間の意見を聞こうとする意欲や態度、自分の考えと比べたり自分の考えに生かしたりする「聞く側」の問題と、話す側のモノローグ的な話し言葉で、伝えようという意識に欠けた発言をしようとする態度などの「伝える側」の問題の2つの側面から考える必要がある。

しかし、それらの問題は、同時に起こることであるため、別々に指導するものではなく、セットとして指導することで初めて効果が表れるのではないかと考えるのである。

そこで、そのための指導として2つの方法を考えた。

その1つは、モノローグ型の話し方からダイアログ型の話し方へと話す側の意識を変えることである。話す側が、自分の言葉で相手の知りたいことを相手の理解に合わせて話すなどの相手意識・目的意識をもつことを大切にしている。誰に何をどのように話せば相手の理解が得られるのか、言葉の役目が「伝える」ということだけではなく、共通理解にあるということ意識させている。それには、聞く側の助けも必要になる。話し手に素直に耳を傾けることはもちろん、目的に合わせて聞かせたり、分からない点を尋ねたりする話し手の言いたいことを吸収しようという意識が重要となる。話し手と聞き手が一体となるような互いの積極的な話しかけや問いかけ、質問やうなずきがあって初めて対話がスムーズに行われると考える。

もう1つの方法は「思い地図」を活用することである。「思い地図」とは、1時間の学習の流れを、自分の考えをノートを中心に書き、最終的に自分の考えが友達の発言や対象の見方の変化によってどのように変容していくのかをとらえることによって、自己の変容をとらえようとするものである。ノートは板書を写すのではなく、自分の考えがどのように変わっていくのか1時間での自己の考えの変容を記すものとして位置付けている。そのため、一人一人のノートは出発点が違い、終着点も違うようになる。そうして、「聞く側」の意識を高め、自らの変容を自覚できるノートになるような書き方を促している。

このように2つの方法を用い、深い「伝え合い、聞き合う」かわりを生もうとしているのである。

「白いぼうし」「女の子は本当にちょうなのか？」の一場面

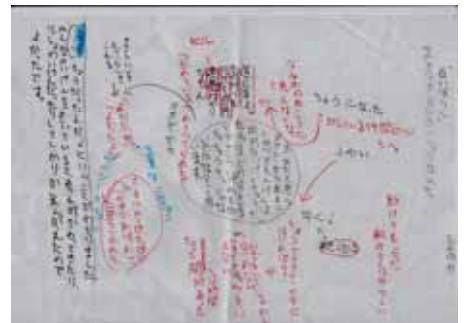
いろいろな場面から女の子がちょうであることの根拠を出し、確認し合い、考えを共有し合う授業をイメージしていた。しかし、途中で、もしかしたら女の子はちょうではないかもしれないという意見も出たときの子どもたちの学びの一場面である。

「並木の緑の向こうに見えなくなってしまったのだから、遠くへ行ってしまうはずやろ。だから、ちょうが女の子になって戻ってくるはずがない。」という意見である。

しかし、それに対して、「『道に迷ったの。行っても行っても四角い建物ばかりだもん。』という言葉から、見えなくなったのは、探してる仲間の所へ行きたかったからと思うんよ。それが、自分が帰る菜の花横丁を探そうと思ったけど四角いビルばかりで見つけれなくて、戻ってきたんとちがうかなあ。」「その証拠に、つかれてそうやん。」「行っても行っても四角い建物ばかりというのは、ずいぶん探したんとちがうかなあ。」「疲れている様子やから、ずっと探してたような気がする。」「この間にはずいぶん時間がたってるやん、それで見つけれなくて戻ってきたんだと思う。」と相手を意識した言葉で意見を重ねていった。みんなの話し合いで、並木の向こうに消えたはずのちょうが、女の子として戻ってきていたことにつながった。その間、みんなが「思い地図」に友達の意見を書き込みながら、自分の考えを確かなものにしていった。

また、ちょうから考えると、ぼうしの中から「助けてもらった。」と解釈すれば、「松井さんならまた、助けてくれると思って戻ってきたのではないか。」と考える子どももいた。ほかにも、「ぼうしの中で捕まっている状態は、ちょうにとってはとっても怖くてもがいていたんとちがうかな。」「男の子が近づいた時、また、捕まるんとちがうとか、こわかったことを思い出してあせったと思うんよ。早く、おじちゃん、早く行ってちょうだいて、ここでもこわがっているし、あせっている様子わかる。」など、ちょうが女の子になっていることを裏付けられるような証拠を探してきた。

このように、ダイアログ型話し言葉に「聞く側」が相槌を打ったり、うなずいたりしながら、呼応の関係ができ、「思い地図」により、友達の考えと比べ、自分の考えを整理していくことができたのである。



子どもが投げつける算数科学習～思考のずれを生かして～ 「割合」を意識した2年生の算数

算 数 科

2年C組担任
土岐 哲也



『分数』の中の相対的な見方

新学習指導要領で2年生に簡単な分数が導入された。2年生では、具体物を用いて1/2, 1/4などの大きさを作ることや、1/2, 1/4などの数を分数と呼ぶことを指導する。指導にあたり、具体物を用いた操作活動を通して分数の意味を理解できるようにしたい。また、同じ1/2でも基準量が変われば大きさが変わるということも、しっかり印象づけるよう指導したい。そこで、次のことをねらいとした。

- ①分数の意味を操作活動を通して実感的に理解させる。
- ②同じ分数でも基準量が変われば大きさが変わることを実感させる。

授業では、まず折り紙をくばり「半分にしてください。」と投げかけた。子どもたちは、折り紙をきちんと2つに折る。そこで、「半分」を「 $\frac{1}{2}$ 」と表記することを教えた。「なぜこう書くと思う？」と問う。「1/2の2は、『2つにわけると』の2」, さらに、「1はその1つ分」と返ってくる。「1/2」を「にぶんのいち」と読むことを指導した。次に、「 $\frac{1}{4}$ 」と板書し読み方を確認する。「今度は、1/4を作るんだよ。」と言って食べ物の写真をくばった。食べ物の写真は、ピザ(円), チョコレート(長方形), カステラ(正方形)とオムレツ(楕円形)の4種類を6グループ分用意した。そのうち2グループ分は、意図的に他のものより大きいものをくばった。食べ物の写真で子どもたちはより意欲的に取り組めた。そして、全員が1/4に分けることができた。このように「半分」ということから導入し、1/2→1/4と考えさせることで、子どもたちは主体的に学習に取り組み、ねらい①は達成できた。

次に、子どもたちが食べ物を1/4にしたものを黒板に貼りだし、児童の反応を待った。「もとの大きさがちがう。」ということに気づいた児童もいたが、もう一つのねらい②はおさえきれなかった。原因としては、もとの形全体を取り上げず、4つに分けた1つ分だけを掲示したため、大きさのちがいがわかりにくくなってしまったことがある。また、大きさだけでなく、形がちがっても1/4であることに気づかせたいためにいろんな形を用意したが、種類が多すぎて黒板が煩雑になってしまったことも考えられる。

反省をもとに次時では、折り紙と新聞紙を使って授業を行った。子どもたちは折り紙の1/4をつくり、私は新聞紙の1/4をつくった。子どもたちは、「先生、ずるい。」「もとの紙の大きさがちがう。」といいながらも、何を分けるかによって1/4の大きさが変わることを実感したようであった。



『長さ』の中の相対的な見方



この単元は、長さ比べをすることから始めた。「だれがいちばん長くできるか？」ということで、一人ひとりが同じ量の粘土を蛇のように長くしていく。途中、「ぼくの方が長いよ。」というつぶやきがあり、自然に粘土を並べて比べ合い(直接比較)が始まった。そのうち、「あ、切れた。長かったのに。」「これじゃあ持てないから比べられないよ。」という声が聞こえてきた。「さあ、どうする？」と投げかけると、1年生の学習を思い出し、「鉛筆で比べればいい。」と子どもからでてきた。つまり、鉛筆何本分(間接比較)という比べ方である。鉛筆を基準量、粘土を比較量として相対的な大きさをとらえようとしているのである。この考え方が、割合の考え方の基礎になる。そこで、みんな

鉛筆で比べることにした。しかし、「ずるい、鉛筆が短い。」「長さのちがう鉛筆を何本もつなげて並べているよ。」など思考のずれがみられた。つまり、一人ひとりの基準量を同じにしなければ比べられないということを見つけたのである。

さいごに

これらの実践から、具体的な操作を通して考えさせることで子どもたちの興味を引き出し、意欲的に学習ができるようになることが確認できた。また、基準量と比較量を意識した指導をすることで、低学年でも割合の考えの素地を作ることができたと考える。

思考の表出と共有！

～植物の継続観察のなかで～

理 科
3 年 C 組担任
馬場 敦義

本校の学校提案は「学びの質の高まりをめざして」である。理科学習における「学びの質の高まり」とは、一言でいうならば、対象に対する自分の見方や考え方をより科学的な見方や考え方へと変容させていくことである。子どもたちは、自分たちの身の回りのことについてその子なりの見方や考え方をもっている。それら自分の見方や考え方はそのときそのときで更新されていく。子どもたちは対象と対話し、他者と対話し、さらには自己と対話する中で様々なことを考え、自然の“文脈”をさぐっている。しかし、自分の中にあるだけでは他者と対話することはもちろん、自己と対話することもできない。そこで、子どもたちの思考を「文章・絵・図・言葉・モデル化・身体表現」で表出させることによって、自然の“文脈”をさぐる過程を研究してきている。自分の見方や考え方の変容をとらえていく手立てと他者とのかかわりによる変容について考えながら、1学期に植物の実践に取り組んだ。

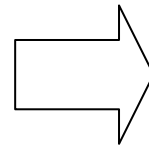
予想と実際のイメージを

子どもたちに育てていく中で、楽しみにしていることを聞いてみた。アンケートの結果、多くの子どもたちが花や実について興味を持っていることがわかった。そこで、自分の育てていくマリーゴールドの花の予想を、種植えの後すぐに描かせた。

種の形が細長いことから想像する子どもやタンポポと似ていることから想像する子どもがいた。このような学習をすることで、子どもたちの植物に対する親しみや成長していく楽しみをもたせることができるとともに、自分の考えと友達の考えの違い、または同じ点を考えることができ、比較してとらえることができていた。



<花の咲く頃の予想図>



<実際の花のスケッチ>

グループ活動での共有



<掲示された観察記録>

植物の観察では、昆虫などと違い毎日の変化は少ない。葉が増え、つぼみができ、花が咲き、実ができるなど少しずつ成長する。だからこそ毎日の観察は大切なのである。子どもたちの中には変化が少ないことで意欲を落としてしまう子もいる。そこで、グループ活動を取り入れ、観察を工夫することにした。観察は自分のハウセンカを記録していくのであるが、観察した記録をグループごとに教室に掲示していくことにした。教室の壁面にはグループ4人の観察記録が重ねられていくことになり、友達に伝えるために自分の観察をしっかりとしなければという意識が芽生え、さらに友達のハウセンカの成長具合を知ることにもつながった。

ICT で観察共有

壁面に観察記録を貼るためには2つの記録が必要となる。そこで、スキャナとプリンタが一体となった複合機を教室に置くことにし、子どもたちが自由に使えるように環境を整えた。ノートに観察記録をとるとすぐに複合機で印刷し、掲示板に貼り付けていくことにした。このことで2回記録をとる必要がなく、その分観察をする時間を多く取ることができた。また、これらはねらったことではないが、複合機で印刷したいという楽しみがあり、そのことで観察をしっかりできた子どももいた。



理科の学習では、対象と深くかかわることがとても大切である。植物を栽培し、観察をしていく際に、子どもたちが継続的に観察をしていくようにしていくことは、対象と深くかかわる上で不可欠なことである。11月の教育研究発表会では、文脈をさぐる過程において、自分の考えを表出し、他者と関わっている姿を見ていただければと考えている。

「どの子にも、『安心』『安全』『楽しい』泳ぎを保障する」指導法研究

体育科
5年C組担任
坂本 圭



1 はじめに

プールでの学習は、多くの子どもたちに人気です。でも、一方で水泳の時間を苦にしている子もいます。泳げないままにされた子どもたちです。今回は泳げない子のつまずきの原因分析と水泳指導の改善点について提案したいと思います。

2 子どものつまずき

多くの泳げない子どもの観察から、泳げない原因を以下のように分けてみました。

【「水なれ」ができていない】水への恐怖心や不安から「顔付けができない」「水中で目が開けられない」「水中で息が吐けない」「顔を上げても口が開かない」子どもたちです。恐怖心がある子はリラックスができないため、次の「浮く」段階でもつまずいてしまいます。低学年期の指導が重要です。

【「浮く(進む)ための姿勢がとれない】頭を水に入れて手脚を伸ばした、「けのび姿勢(ストリームライン)」は、すべての泳法の基本です。オリンピック選手でもこの姿勢の保持を最も大切に考えています。ところが、泳げない子どもの場合、手のかきやキックにばかり意識がいきってしまい、この「けのび姿勢」の保持を忘れがちです。低学年から中学年においては手のかきやバタ足よりも先に、この「けのび姿勢」を身につけさせておくことが大切です。よく進む姿勢は、よく浮く姿勢でもあります。水に浮けることは、生命の安全にもつながります。

【「息つきができない】初心者が泳ぎを覚える際に最も難しいのが「息つき」です。従来の「面かぶりクロール」を経由する指導の順序では、息つきを入れたとたんに泳げなくて止まってしまう子がたくさんいました。息つきができることは、生命の安全のためにも不可欠です。息つきができなければ 25m 進んでも「泳げた」とはいえないのです。新指導要領では、「浮く・泳ぐ運動」が4年生にまで広がったので、「初歩的な泳ぎ」で基礎的な動きの習得を重点的に取り組みます。「横向き息つき」や「水中でのバプリング」といった難しい技術よりも、「水中では息を止め」「前向きに顔を上げて「パッ」と吐いてしっかり吸う」「吸ったら頭を入れて浮くまで待つ」ことから導入する方が息つきを容易に習得できます。このことは、NHK「ためしてガッテン」(1999年7月)でも証明されました。

【「手のかき・キック・息つきの3つのタイミングがわかっていない】息つきと手のかきは必ずつながっています。キックは、息つきをして顔を上げることで沈んだ下半身が浮いてくるように入れることを指導すると、タイミングがわかりやすいようです。つまり、「かき+息つき キック」の順序です。「息つき 浮く」の繰り返しができるようになると、長く泳げるようになります。

3 実践への適用

本校の5年生では、25m 泳げない子が学年の半数近くいました。プール使用は学年ごとに割り当てられているため、泳げる子のコースと泳げない子のつまずきにに応じた3つのコースの合計 4 コースに分けて指導しました。

結果的には欠席がちだった3名の子をのぞく全員が25m 泳げるようになりました。また、「ストリームライン」を大切に効率よく進む泳ぎ方の指導は、泳げる子たちの泳ぎの「質」を高めることにも効果的で、「とても楽に泳げた」「よく進むようになった」「速く泳げるようになった」という声が多かったです。

クロール・平泳ぎの両方で効率よく泳げるようになった子は、泳げる子コースのモデルとして先頭を泳いだり、泳げない子の補助を手伝ったりしてくれました。教師の補助や声かけの仕方を見習って自然と声かけをしていました。泳げない子のコースでは、初歩的な泳ぎ方で泳げるようになった後に、手のかきを平泳ぎ型とバタフライ型のいずれかやりやすい方に変えさせることで、初期型4泳法に発展させていきました。クロール・平泳ぎで泳いでいた子の中に「私にもバタフライ、教えて」という子が出てきて、その子も一緒にバタフライの練習をしていました。泳げる子にとっても、「泳ぐための技術」がよくわかる学習になりました。



協同的な学びへ

4 おわりに

これらの例から、水泳の学習においても「協同的な学び」は可能だということがいえそうです。来年度は、この指導系統を全校カリキュラムに位置づけようと考えています。



泳ぎの基本姿勢

楽しく学ぶ音楽の基礎・基本

音楽科
1年B組担任
田辺 麻衣子



音楽科では、「音楽が好きだ・歌いたい・演奏したい・聴きたい・創りたい」という子どもを育てることを目指しています。

今年度も「音楽作り（創作）」領域に重点をおいて研究を進めています。

「リズムにのってあそぼう」の実践から

「たん」と「たた」と「うん」を組み合わせせて「ことばあそび」をしました。ペアでのしりとりをリズムフレーズに変えていく活動です。1つの言葉を2小節に当てはめます。下記のように1つの言葉からいろいろなリズムフレーズを作ることができます。

●	●	●	♪	●●	●	♪	♪
と	ま	と		とま	と		



「とまと」に続けて「とり」「りんご」というように、交代でリズムフレーズを作ってどんどんつなげていきました。

～しりとりを取り入れることの良さ～

- ・1年生はしりとりが大好き。
- ・交代でリズムフレーズを作るので一人ひとりの学びを保障することができる。
- ・リズムフレーズを長くつなげていくことができる。
- ・力のあるペアは時間の許す限り自分たちでどんどんリズムフレーズを作ることができる。その分時間のかかっているペアに手厚い支援を行うことができる。

「たん」などの言葉は使わずに四分音符・二連八分音符・四分休符をそのまま書きます。音符を書くことで楽譜を理解する力が少しずつついてくると考えているからです。

最後にできたリズムフレーズを手拍子で表現していきます。どのペアも楽しみながら表現することができました。授業後、子どもたちは「すごくおもしろかったから、またやりたい。」と言っていました。実際に作ったリズムフレーズを見ると、小節の中に正しく2拍分を入れられていない間違いもありました。次時で復習をし、「リズムにのってあそぼう」の実践を終わりました。

リズムフレーズをつくるまで



はこのなかいくつかな？



『たぬきのたいこ』と『せいじゃのこうしん』の鑑賞教材を使って2拍子と3拍子の学習をし、はこ（小節）の中に入っていく四分音符が入るか理解します。

既習曲『ぶんぶんぶん』のリズムフレーズを書いたり、「たん・たた・うん」を組み合わせさせて好きなリズムフレーズを作ったりします。

手拍子と合っているのは何番かというクイズをします。いちごの問題で、「たた・たん・うん・うん」という手拍子がきこえたら2番というように、耳と目を使ってリズムフレーズを理解します。

全国複式学級の学びの交流をめざして

複式学級
1・2年担任
北川 勝則

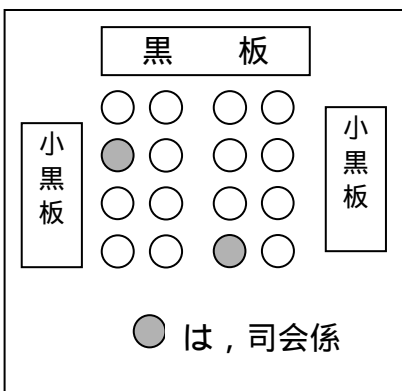


去る7月28・29日に和歌山大学教育学部附属小学校において、夏季教科別研修会が開かれました。複式教育部では、今回初めての取り組みとして「教師のわたり」「間接指導」をテーマに公開授業を行いました。本校複式部からは、1・2年生が国語科で詩の授業を3・4年生が算数科で授業を行いました。そして、5・6年生では、高知大学教育学部附属小学校の田中元康先生に国語科で句読点・助詞についての授業を公開していただきました。

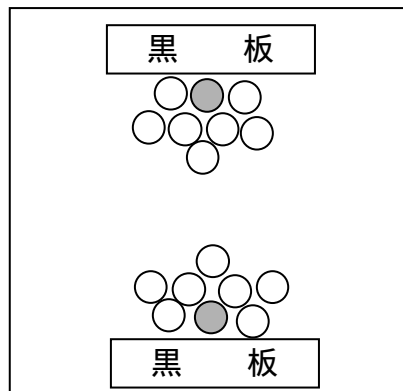


また、協議会では、鹿児島大学教育学部附属小学校の加治木徹先生に鹿児島の複式の学習形態や指導方法について発表していただきました。

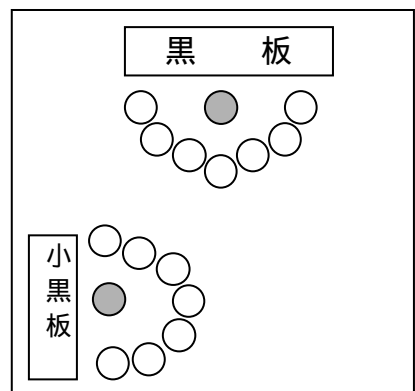
同じ複式学級でも、ところ変わればいろいろと違うところがあるようです。一例を挙げれば、高知大附属小では、前の黒板を教師の説明用とし、左右に両学年の児童が使う小黒板を配置するようにしています。鹿児島大附属小では、前後に黒板を配置し、司会を2重に取り囲むような机の配置にしています。そして、和歌山大附属小では、黒板と小黒板を90°にして座席は司会を半円のように取り囲む机の配置となります。紙面の関係で、それぞれの配置理由についてはここでは述べられませんが、3校とも違う形をとっているということは、全国に数多くある複式学級では、もっとたくさんの学びのためのスタイルがきっとあることなのでしょう。今回の交流は、複式学級を担任する者として大変刺激的で学ぶことの多い機会となりました。和歌山大学教育学部附属小学校複式部は、できる限り全国の複式学級の交流の場としての役割も果たせればと考えています。今後もみなさんと一緒に複式学級の授業方法やこれからのあり方について考えていきたいと思えます。



高知附小スタイル
児童の机は必要に応じて移動させ、子どもに小黒板を活用させます。



鹿児島附小スタイル
黒板を前後に使い、机をコンパクトに集めて近い距離で話し合います。



和歌山附小スタイル
90°にすることで、指導者は両方の学習を見渡せます。

From Editors

トップページでご紹介しました教育研究発表会を11月1日に開催します。ふるってご参加ください。
くわしい情報は本校HPをご覧ください。

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号
TEL (073) 422-6105
FAX (073) 436-6470
URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>
E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp